

知って備える 防災メモ

第21回



土砂災害から身を守るための3つのポイント

ことし8月に広島市で大規模な土砂災害が発生し、大きな被害をもたらしました。普段から大雨警報などに注意し、次の3つのポイントを確認しましょう。



▲市が作成した『登別市防災マップ』

◆住んでいる場所が『土砂災害危険箇所』かどうかを把握する

土砂災害の恐れのある地区は、『土砂災害危険箇所』に指定されています。

自宅や周辺が土砂災害危険箇所にあるかどうか、日頃から『登別市防災マップ』や市ホームページなどで確認しましょう。

◆雨が降りだしたら土砂災害警戒情報に注意する

集中豪雨や長雨の際は、『土砂災害警戒情報』に注意しましょう。

『土砂災害警戒情報』は、大雨による土砂災害発生危険性が高まったときに、気象庁と北海道が共同で発表する防災情報で、市が避難勧告などを発令するときの判断や、住民の自主避難の参考となります。

テレビやラジオでも発表されますので、情報収集に努めましょう。

◆土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する

『土砂災害警戒情報』が発表されたら、近くの避難場所など、安全な場所に早めに避難しましょう。

避難場所への避難が困難なときは、親戚・知人の家など安全な場所や、近くの頑丈な建物の二階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は、家の中でより安全な場所（床から離れた部屋や二階）に避難しましょう。

問い合わせ

総務グループ

(☎) 1130

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

フォークダンスサークル『すずらん』

『すずらん』は、昭和62年に発足したフォークダンスサークルで、今年で28年目を迎えます。現在、会員は14人。毎週土曜日の10時から12時まで、婦人センターで活動しています。

「フォークダンスは、動きやステップ、踊る人数など、その形はさまざまです。曲や踊りを通して、世界の文化や風土に触れることができ、その魅力は多彩です。フォークダンスを始めて約30年経ちますが、今でも、踊っているときは年齢を忘れ、若々しい気持ちになります」と話すのは、代表の鈴木ミサさん。「練習が終わるころには、体も軽くなり、すっきりとした気持ちになります。きれいな踊りを踊れること、世界各国の昔の



▲ステップを踏み、楽しく踊るメンバーの皆さん

曲を自分の体を使って表現することも魅力の一つです。初心者の方でも講師やメンバーが丁寧に教えてくれますし、年齢を重ねても長く続けることができますよ」と、鈴木さんは練習の様子を語ります。

3年前から同サークルで活動している青木洋子さんは、「みんなで踊るので、気持ちが一つになり、一体感を感じることが出来ます。フォークダンスを通じて、メンバーとも強いつながりができ、和やかな雰囲気でもとても楽しいです。今は、しっかりと練習をして、周りのメンバーに追いつくことが目標です」と笑顔で話してくれました。

入会を希望される方は、鈴木さん(☎)3386)まで。

住民同士が交流を深め 合う地域の拠点施設

「町会の婦人部のメンバーが手作りの食事を振る舞ったり、講師を招いて、かるやか体操の教室を開いたりして、お年寄りが気軽に集い、和気あいあいとした雰囲気の中でおしゃべりに花を咲かせるなど、住民同士が交流を深め合っています。12月には、地域の子どもと一緒にクリスマス会を楽しみ、世代を超えた交流の輪が広がっているのがうれしいですね」と笑顔で話す畠山憲一さん。

『ふれあいサロン花園』は、登別本町2町会の役員や民生委員児童委員から、市内各地で開かれているお年寄りが憩うサロンを町内にも開設できないか、との話が持ち上がり、平成24年10月、町内の商店の店舗跡にオープンしました。「平成20年まで商店を営んでいた相原亮平さんが、自費で店舗跡を改修し、多くのお年寄りが集まる地域活動の拠点施設にと提供してくれました。運営は町会の婦人部が行い、日曜日と祝日を除き、毎日開設しています。住民誰もがいつでも思い思いの時間を過ごすことができる温かい場所にしたいですね」。



▲『夏休み子ども塾』で子どもに勉強を教える畠山さん(右)

役割を積極的に果たして くれる役員や会員に感謝

『ふれあいサロン花園』で開催した『夏休み子ども塾』で、畠山さんは、町会のほかの役員とともに、子どもの指導に当たりました。「自分たちも子どもと一緒に学ぼうという気持ちで始めました。地域の将来を担う子どもたちのため何かできないかと、役員の発案がきっかけでしたが、町会長だけではなく、自らの役割を積極的に果たす役員や会員がいるからこそ、この取り組みが展開できると思います。子どもの学力向上だけではなく、子どもからお年寄りまで、住民みんなが顔見知りになつて助け合える、安全安心なまちづくりにつながるべうれしいですね」と、地域への思いを話す畠山さん。

住民同士が支え合う地域を目指す、今日も町会活動に奔走します。



KIRARI

はたけ やま けん いち

畠山憲一さん(登別本町)

登別本町2町会では、町内の商店の店舗跡に『ふれあいサロン花園』を開設し、お年寄りをはじめ、住民が集い、交流を楽しむ憩いの場となっています。

また、同サロンでは、登別地区で初めての住民による子どもの学習支援として、市が用意した学年別の問題集を教材に『夏休み子ども塾』を開催し、登別小学校の児童34人が参加するなど、世代を問わず、地域の交流拠点施設として利用されています。

同町会長の畠山憲一さんに、『ふれあいサロン花園』や『夏休み子ども塾』の取り組み、地域への思いを聞きました。

住民みんなが顔見知りの 安全で安心な地域を目指す



昭和21年、室蘭市生まれ。67歳。北海道室蘭栄高等学校、神奈川大学を卒業後、神奈川県内の自動車用部品製造企業に就職。昭和49年、北海道に戻り、室蘭市内の製鉄関連企業に勤める。町会活動の傍ら、まちづくり活動にも積極的に関わっている。